

第 57 回工大祭 建築デザイン学科展示 活動報告書

2018.11.20

匠会 4 年生 前田 元



会場の様子 3 点

□企画目的

毎年、五三学生会部会「匠会」の企画運営により、広島工業大学 環境学部 建築デザイン学科の学科展示を開催しています。この展示会は、各研究室の研究内容や模型作品を展示し、工大祭に来ていただいた一般の方や他学科の学生、これからゼミ配属される本学科の学生に、学科の活動を発表することを目的としています。今年度 11 研究室中 9 研究室が参加しました。

□日程・来場者数

11 月 3 日（土） 11:00～17:00（受付協力：河田ゼミ、平田ゼミ、杉田洋ゼミ）

来場者 293 名

11 月 4 日（日） 11:00～17:00（受付協力：遠藤ゼミ、杉田宗ゼミ、番匠谷ゼミ）

来場者 267 名

来場者合計 560 名

□展示物

遠藤研究室	豊島美術館/西沢立衛、落水荘/フランク・ロイド・ライト 建築模型、設計者・建築概要・設計趣旨など作品紹介パネル
前田研究室	ガララテーゼ集合住宅/カルロ・アイモニー+アルド・ロッシ 建築模型
河田研究室	キャンパスにおける「あいだ」の発見 建築模型、作品紹介パネル 3 作品
平田研究室	ゼミ活動紹介のスライドショー
杉田（洋）研究室	『広島工業大学における在学生による施設環境評価』 『在室者が求めている清楚品質を供給する』 A1 パネル 2 枚
杉田（宗）研究室	パヴィリオンへのモックアップ 模型及び作業風景の写真の展示
河内研究室	木造建築と製作建具による空間創造

	1 / 1 建具、パネルによる製作趣旨
渡壁研究室	『建築物の耐震補強前後の振動特性に関する研究』 『ICT 関連技術を活用した建築構造設計への一連のシステム構築に関する研究』
	A1 パネル 2 枚
天満研究室	ゼミ活動の紹介と空き家問題について
	A4 パネル 3 枚

□ アンケート結果

アンケート回収数 193 枚

Q 展示の仕方はわかりやすかったか？

- 満足である 86 人
- やや満足である 72 人
- どちらともいえない 24 人
- やや不満 1 人
- 不満 0 人

Q パネル、ポスター、模型展示で良いと思った研究室はどこですか？(3 つまで回答可)

遠藤研究室	95 票
河田研究室	62 票
前田研究室	39 票
番匠谷研究室	39 票
河内研究室	26 票
杉田(宗)研究室	25 票
天満研究室	24 票
平田研究室	19 票
杉田(洋)研究室	9 票
渡壁研究室	7 票

□ 展示品の感想

● 遠藤研究室

- ・落水荘の高低差や植栽などもリアルで凄かった
- ・いろんな素材が使われていて良い
- ・豊島美術館がリアルに再現してあり良かった
- ・写真でしか見たことなかった建物を立体で見ることで、建物の素晴らしさを再確認できた

● 河田研究室

- ・人の視点を意図的に操作するという視点が面白い
- ・大学内で実際に考えるというのが凄い
- ・建築の意味や意図を明確に示しており、利用させたいという設計が見られ、良かった

- ・身近な環境をテーマにそこに集うからこそその快適さを具体的に表現できており良かった

- 前田研究室

- ・細かいところまで丁寧に素晴らしかった
- ・模型が大きくて綺麗だった
- ・集合住宅の中まで詳しく再現されていて良い
- ・人がいたり細かく再現されていた

- 番匠谷研究室

- ・他のゼミとは視点が違って良い
- ・マガジンラックが便利そう
- ・木工で作成してあり暖かみを感じた
- ・ミニテーブルの作りが丈夫で、個性的で良かった

- 河内研究室

- ・パネルで作成工程があってわかりやすかった
- ・建物の転換気における現代において木造住宅をより現在の都市空間に生かそうという点が良かった
- ・アクションプランがはっきりしていて、それを実行している点が良かった
- ・シンプルなプランに構造材の重なりが楽しそう

- 杉田（宗）研究室

- ・ヒモで立体的に作品を自立させており関心した
- ・デジタルという技術と物理法則に沿ったアナログによる方法をデザインに生かそうという点が良かった
- ・具体的にどういうことを学んでいるかよくわかり、良かった
- ・文字ではなく写真だったので伝わりやすかった

- 天満研究室

- ・実践的に行われていることがあり良い
- ・古民家のプロジェクトの進行具合が興味深かった
- ・宮島の空き家問題に興味があったため良かった
- ・古き良きものが荒廃化していく問題に若い世代が取り組んでいるところが良かった

- 平田研究室

- ・地域に密着したテーマを題材に研究しており良い
- ・実際に活躍している様子が楽しそうで良い
- ・建築は建物だけだと思ったが、違う視点もあり面白いと感じた
- ・地域との関わり、やりがい、ものづくりがどれも楽しそうでやりがいがあるものだと思った

- 杉田（洋）研究室

- ・テーマが親しみやすい
- ・学生による施設の潜在能力の評価が面白かった
- ・難しそうな題材もわかりやすく良かった
- ・マクロ調査の結果がよかった

- 渡壁研究室

- ・耐震について知りたいなと思った
- ・耐震は大事だと思ったので良かった
- ・熊本地震について取り上げているのが良かった
- ・地震についての対策が一番重要だと考えているので良かった

□その他の感想

- ・見るだけでは分かりづらいゼミがあった。
- ・模型の精度が高くすごいと思った
- ・設計ゼミの設計課題が見てみたい
- ・難しくてわかりづらかった
- ・もっと広いスペースでたくさんの展示が見たかった

□所感

今年から建築デザイン学科の1期生にあたる3年生が主体になり展示作品を制作していたため、去年までとは異なった学科展となりました。新しく始まった「デザインスタジオ」での活動を紹介する研究室が多く、より専門的な内容の展示作品が多かったです。学生が設計した建築や建具・家具があり、建築デザイン学科でどんなことをしているのか具体的でわかりやすいと感じました。

来場者の方々に対する学生の対応も非常に良かったとの声も頂きました。更に受付に協力してくれた学生がアンケート配布など、来場者の方々に対して積極的に動いてくれたおかげで良い雰囲気の中、学科展示を建築デザイン学科みんなで盛り上げることができたように思います。

□成功点

- ・学科が変わったことにより展示内容が変わった。
- ・スタンラリーへ参加したことで集客数を伸ばすことができ、子供から大人まで幅広い世代の方々に展示物を見てもらえた。
- ・各ゼミとの連絡がしっかり取れていたため、問題なく学科展を終えることができた。
- ・搬出・搬入時は作品出展研究室の協力により、問題なく進めることができた。
- ・各ゼミが他のゼミの展示物を見ることができ、良い刺激を与えられたと感じた。

□反省点

- ・去年より来場者が少なかった。
- ・専門的な内容が多いが、説明が少なすぎて理解できてない来場者がいた。
- ・文字が見づらい（文字の大きさ、パネルの大きさ）。
- ・建築デザイン学科の全体としての展示に関するコンセプトをどこにも書いていなかったため、来場者には不明瞭だった。
- ・過去の作品を出しているゼミがあった。
- ・実際に建っている建築なのか学生が設計した建築なのかわかりづらい。

□これからの目標、改善点

- ・ 専門的な内容なので説明できる学生が展示室に常駐する。
- ・ パネルを見やすいものにする。(文字の大きさ、パネルサイズの統一)
- ・ 匠会で学科全体の紹介のパネル等の制作を行う。
- ・ すべての研究室が毎年新しいことに挑戦し、学科展に対する意欲を高める。

以上